



8月1日、参院選で当選した小池晃さん、吉良よし子さん、白川容子の3人で初登院。「いのちの声を届ける議席」として、託された声をひとつひとつ全力で届け、実現させるために力を

勇気りんりんエッセイ 参議院議員 白川よう子

をつくします。党の衆参議員団総会でも、「山下さん井上さん、島山さんをはじめ、参議院選とともにたたかった全ての皆さんの思いを胸に、頑張り抜きます」と挨拶。

常任委員会は「厚生労働委員会」、特別委員会は「政府開発援助等及び沖縄・北方問題に関する特別委員会」に決まりました！重責に身が引き締まる思いです。

7月30日、大平よしのぶ元衆議院議員、仁比聡平・山添拓参議院議員と白川よう子で、防衛省・外務省に要請とレク。7月27・28日中国新聞は「日米有事で核使用を議論」と、一面トッ

【2面から】 主催研究会の後援は、今年は香川県と高松市だけ。後援の要綱の見直し、子どもたちの人権に関することはしないでほしい」と要望。課長補佐は、「ご意見は承ります」と応えました。

恒例のフラワードेम

フラワードेमが7月23日に高松市内で行われました。本来は毎月11日に行いますが、7月は参院選挙があったため、23日に変更して取

り組まれました。この日は街頭に9人集まり、「Me Too」「性暴力を許さない」と書かれたプラカードと横断幕を掲げてのアピール行動で連日報道しました。その内容は驚くべきことに、机上演習で米軍が核兵器を使うシナリオを日米間で議論し、しかも「自衛隊が米軍に核の脅しで対抗するよう繰り返し求めた」というものでした。

レクでは、防衛省は開口一番に「事実無根」と断言。しかし、問いを深めてみると報道の一部は事実無根だということに変わっていく。

被爆80年の節目を迎える広島や長崎の皆さんの思いを踏みにじり、許されない内容です。唯一の戦争被爆国日本がやらなければならぬのは、核の傘の強化ではなく、いかなる事態でも核兵器を使ってはならないという強い意志を示し、核兵器の廃絶を求める立場に立つことではないでしょうか。

「日本被団協」が

ノーベル平和賞を受賞

香川の一会員として今思うこと⑨ 藤井明

動とハンドマイクを使ってスピーチを行いました。衆院選後の行動だったため、参加者たちは「白川さん、当選してよかったですね」とお互いに喜び合いました。8月のフラワードेमは今後の活動についてのミーティングを行い、社会に対してのアピールを強めていく行動に取り組んでいく予定です。

白川よう子参院議員、岡田まなみ、藤沢やよいの両高松市議、鍋谷まゆみ小豆島町議が参加しました。



地球に生きている人はみんな「被爆者候補」だ！：「一触即発の危機」とは

これまで4回に渡って事故と核攻撃探知システムの誤作動やミスについて見てきましたが、その結論は、「核兵器を安全に管理して抑止力として活用する」と

言う発想そのものが非現実的だということでした。更に今日は、事故やミスの危険性に関わる最後の論点として、「一触即発の危機」と言うことに触れてみたいと思います。

これは、高度な自動化によって核兵器の発射に必要な時間が【4面につづく】

高松市教育長に要請書を提出し懇談 教科書採択の全面「公開」を求めて

7月28日、平和憲法を生かす香川県民の会、香川の教育をよくする県民会議、民主教育をすすめる香川県民会議、香川の子どもと教科書ネットの4団体合同の要請に日本共産党市議団が参加しました。綾田学校教育課課長補佐らが応じました。

要請は、▼教科書採択審議会の傍聴ができるようにする▼日本国憲法の三原則に則り、立憲主義の立場に立つた評価をする▼教科書採択においては、教科書を使う教師の意見を尊重する▼「教育勅語」を賛美し、日本国憲法99条の憲法擁護義務の規定に反する考え方をもち公益財団法人モロロジード徳教育財団主催の研究会を後援しない、学校教育の中に、モロロジード



道徳教育財団の考えを取り入れない▼教職員をモロロジード道徳教育財団主催の研修会などに公務で参加させない▼教科書展示会が、より多くの地域住民に触れられるように、土日の開放や図書館での展示をすることなどです。

岡田市議は、「文部科学省の教科書採択通知には、ルールをきちんと定めておくことが大事で、公開してはいけないとは書いていない。高松市もきちんとルールをつくる中で審議過程を公開すべき」と述べました。参加者から「モロロジード徳教育財団 【3面に

ストップ・温暖化 ①

風 遥

暑中お見舞い申し上げます。連日の猛暑ですが、みなさんお変わりありませんか？

さて、この暑さいつまで続くのでしょうか？仮に昨年と同様だとすると、35度の猛暑日は9月下旬、30度の真夏日は10月上旬まで。でしょうか？まだまだ、先が長いです。

今年の3月、気象庁と文科省は、地球温暖化などの将来予測をまとめた「日本の気候変動2025」最新版を公表しました。

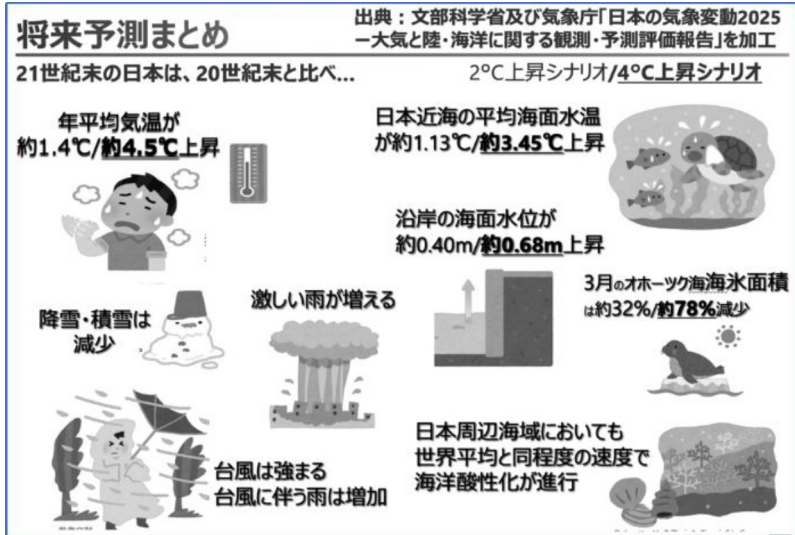
その内容は、かなり厳しいもので、温室効果が削減などの追加対策が取られない場合、産業革命以前は100年に1回しか起きなかった高温が21世紀末にはほぼ毎年起き、大雨も約5倍に大幅に増えると、予測しています。

報告書は、温暖化対策の国際的枠組み『パリ協定』の「2度目標」が達成され

て21世紀末までの年平均気温の上昇を20世紀末から約一・四度にとどめた場合と、追加策を取らずに約四・五度上がったしまうは場合に分けて、日本の気候を予測しています。

四・五度上昇の場合は、

1時間降水量50ミリ以上の非常に激しい雨が降る年間発生回数は約3倍。日本近海の海面水温は約三・五度上昇。降雪量は全国的に減少するものの、本州の山間部の一部では極端な大雪の可能性がある。また、北極海の海水面積は減少し、21世紀末までには、夏季にほぼ水が無くなると、予想。そして、一番



の問題は現時点でどのくらい気温が上昇しているのかで、「日本の年平均気温は、昨年までに100年当たり1に換算して、既に一・四度も上昇している」とのこと。正に、最悪のシナリオで進んでいます。では、私たちはこれから、いや今すぐ、どのような行動を取ればいいのか。これから、みなさんと一緒に考えていきましょう。